

介護福祉士の資格を有する介護支援専門員に有用な退院時看護サマリー

石川 和美 氏

南医療生活協同組合 総合病院 南生協病院 看護師



キーワード：退院時看護サマリー、介護福祉士、介護支援専門員、退院支援、連携

●研究の背景・必要性

我が国の総人口は1億2000万人であり、2011年以降減少している。一方、65歳以上の高齢者は一貫して増加し、3500万人を超え、総人口に占める高齢者人口は28.1%となった。今後もこの割合は上昇を続ける見込みとなっている。このような状況の中、厚生労働省は2025年を目処に、高齢者が尊厳の保持と自立生活が可能となるような支援をめざし、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、地域の包括的な支援・サービス提供体制(地域包括ケアシステム)の構築を推進している。通常、在宅でのサービス調整は、介護支援専門員がおこなう。介護支援専門員として、実務している職種は介護福祉士が多い。

患者や利用者のケアに際し、職種間の専門性の違いや互いの専門性を理解しながら協働する必要があるが、情報伝達の表現に相違があり、看護師の退院時看護サマリー(以下サマリーと略す)が理解しづらいとの報告がある。医療(病棟看護師)と介護(介護支援専門員)の切れ目のない連携を可能とするためには、当該患者(利用者)の情報(医療情報や患者の日常生活動作、患者・家族の意向など)が適切に表現され、伝えられなければならない。そのためには、病棟看護師と介護支援専門員が同じような解釈ができるような表現でサマリーが記載されていることが必要となる。また、介護支援専門員が在宅で必要とする情報をサマリーから取得して、在宅の療養生活を整え、社会資源を利用してゆくことで、利用者にとって、最適な療養環境になることが期待できる。そのため、介護支援専門員が理解しづらいサマリーはどのような項目なのか、必要とする情報が記載されているサマリー、求めるサマリーはどのような内容であるかを明らかにする。

●研究方法

- 1) 介護支援専門員を対象とした聞き取り調査から、現状のサマリーの問題点の抽出
- 2) 1)の聞き取り調査の結果を反映して、有用なサマリーとなる評価項目を研究者が作成
- 3) 2)を念頭においた模擬患者のサマリー作成
- 4) 3)のサマリーが理解できるのか、有効なのかを介護支援専門員を対象にアンケート調査
- 5) 4)の結果を分析し、3)と同一の模擬患者についても一度サマリーを作成する
- 6) 4)と同様に2回目のアンケート調査
- 7) 6)の結果を分析し、介護支援専門員に有用なサマリーの評価項目・内容を明らかにする

●倫理上の配慮

本研究は人間環境大学研究倫理審査委員会の承認を受けている(承認番号：2018N-014)